

# もりや里山新聞

‘20/11/14

【土曜日】

発行

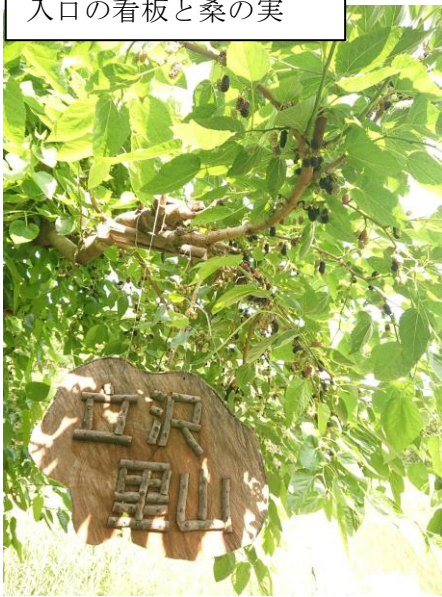
守谷里山ネット

## 一、立沢里山自然再生事業(その2)

今年「里山祭り」を念頭に里山の基盤整備を始めましたが、新型コロナウイルスの影響で祭りは中止となりました。しかし、取り掛かった作業はある程度区切りをつけなければなりません。



入口の看板と桑の実



前号のとおり、暗渠、湧水、ベンチなどの整備は完了しましたが、田んぼの土を上げて畦道を拡張する作業はかなりの重労働でした。みんなの連日の作業のお蔭で何とか田植えの前には完成しました。人がすれ違える幅員と、小川に面した畔は漏水の危険性はかなり減少することが期待できます。池のロープ柵も以前から気になっていましたが、ようやく補修できました。

今後は、老朽化した大型看板、

新設した小池にはカエルやメダカがはたして住み着いて、賑やかになりました。再生した畑地の周辺に、近傍の里山からワラビ、フキ、タラの芽、マコモ、野イチゴなどの山菜を移植しました。

ツリーデッキなどの補修が必要になっていきます。また土手道の改良とミニ滝の復元、最近頻発する洪水対策として、小川の除草も必要になってきています。

### 目次

1. 立沢里山自然再生事業(その2)
2. 里山会員で田植え
3. 自然博物館の再開と窯出し
4. 里山の夏:ソーメン流しと湧水プール  
山百合自生地を巡る
5. 稲刈りとお米の学校配布  
里山に稲ワラの妖怪「アマビエ」出現



**ボランティア募集**  
あなたも一緒に楽しみましょう!

### 守谷里山ネットワーク

〒302-0119

守谷市御所ヶ丘 5-25-1 守谷市民活動支援センター

☎ 0297-46-3370

メール [denen21@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:denen21@ktb.biglobe.ne.jp)

ホームページ [「野に集い野に遊ぶ」](http://www7b.biglobe.ne.jp/~noasobi/)

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~noasobi/>

守谷市では、多くのボランティア団体が各地で、手作りによる里山づくりを行っています。何か地域で活動してみたい/自然と関わりのある活動をしてみたい/子供たちの遊び場を作ってみたい/みんなで楽しく汗をかいてみたいそんな思いをお持ちの方は、ぜひこの機会にご一緒に活動してみませんか。

## 二. 里山会員で田植え

北守谷団地の三小学校（御所ヶ丘、松前台、大井沢）の五年生児童により合同で行われる稲作体験は今年で十七回目となり、毎年子供たちは楽しみにしています。

しかし今年には新型コロナウイルスの影響で残念ながら田植えは中止となりました。

ただ状況が改善して秋には稲刈り体験の可能性もあることから、会員の大人を中心として田植えを



行うことにしました。

五月十六日（土）天気予報では雨天とのことでしたが、当日朝の短時間予報では午前中は大丈夫とのこと、実施することになりました。

大井沢小学校時代に稲作体験をしたという田んぼの学校卒業生の女子高生二人の飛び入り参加もあり、三密を避けながらも楽しい田植えとなりました。

今年は縄を使わず、木枠で目印をつける新兵器が登場して、田植えは順調に進み十一時半頃には無事終了しました。終了と同時に

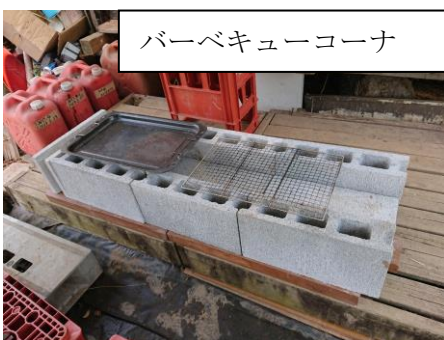


大雨となり、ぴったりのタイミングで助かりました。

## 三. 自然博物館の再開と炭出し

### 再開と炭出し

恒例の炭焼きは四月四日（土）に火止めして例年なら四月二五日（土）に窯出しとなるどころでしたが、茨城県は新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が出され、県立の自然博物館も



しばらく閉館となり、すべての取り組みが延期される事態となりました。

五月十八日ころから茨城県は徐々に解除されてきて、五月下旬ようやく博物館から竹炭搬出の正式な了解を取り付けることができました。六月六日（土）九時から窯出しを始めることにしました。ところが、当日現地に行っ驚きです。ひと月半近く閉館だったことから、炭窯周辺は野鳥などのいたずらであらゆるものが散乱し大変なことになっていました。急いで周辺を掃除しました。窯出し作業は順調に終了し、竹炭と竹酢液七缶を里山の倉庫に運搬しました。

六月六日は本来なら「里山祭り」を予定していた月日であることから、自然観察会のルート検証や山菜と農作物の収穫体験を行い季節の検証を行いました。また収穫した食材と搬出した竹炭を活用してのバーベキューも試験的に実施しました。

### 四・里山の夏：ソーメン流しと湧水プール

例年の夏は、子供たちによる田んぼの草取りと自然観察会や子育て支援ネット「ママもり」を迎えての親子自然体験や「ソーメン流し」を実施していましたが、すべてのイベントは中止としました。

ところが、長い休校や在宅勤務などの反動からか、三密の危険性が少ない里山には、むしろかなりのお客さんが来るようになりました。特に目立つのは例年だとあまり見かけないお父さんが子供たちと同行する風景です。新型コロナは家族の原点を思い起こさせる大事な役割を果たしたのかもしれない。

そのような状況に刺激されて、

ソーメン流し



これらは会員の交流として利用したほかに、夏休み期間中は家族連れの皆さんに開放し利用していただきました。特に今年の夏は猛



冷たい湧水プール

毎年恒例で好評の「ソーメン流し」と「湧水プール」を常設で設置して、自由に使うてもらおうことになりました。

暑だったことから冷たい地下水をくみ上げている「湧水プール」が好評で、多くの子供たちに楽しんでもらえました。

### 山百合自生地を巡る

久しぶりに自転車で守谷市内の山百合自生地を回ってみました。かつて、里山ネットワークや市民大学のコースの中で市内の山百合自生地を巡回するイベントを実施したことがあります。

昔と同じに頑張っている自生地もあれば、周辺の環境が変化して消滅の危機に直面する自生地など様々でした。縮小している要因は里山周辺で

地主の高齢化による管理不足や、四季の里周辺で、樹木が成長して日陰となったことなどです。数は少なくても神社の片隅で相変わらず頑張っているものもありました。最も感激したのは同地の森林クラブが活動する森林でした。間伐作業によって日照条件が改善され、一度消滅した山百合が復活し、中には2mもの背丈、花弁が30cmもあり、まさしく女王の貫禄で優雅に数多くの花を咲かせていました。近づくだけで強烈な香りが漂ってきます。カエルがよじ登って花見をしていました。

樹高2mもある山百合



カエルも花見



### 五、稲刈りとお米の学校配布

市内では秋になって小学校の稲刈りを再開したケースもありますが、立沢里山は北守谷の3小学校合同で実施するため、もしもの際の影響が大きいとして、今回は見送ることにしました。

小学児童の集合場所だった平坦な広場にオダ掛けを設置し作業の効率化を図りました。

九月十二日(土)朝から始めましたが、田植えと違い稲刈りは、刈り取り、結束、運搬、オダ掛けと工程数が違います。小さな子供達でも2百名以上の手数が大きな戦力であったことが理解できました。結局、翌日の夕方までかかって、

雨の前によく終了しました。

脱穀・精米作業は台風十四号が突然発生して近づいているとのことから急遽九月二三日(水)

に実施しました。今年は七月まで日照不足で分結が少なく収穫量も平年の七割程度でした。

今年には子供たちが稲作作業に参加できず、収穫祭などの学校イベントも取りやめとなっており、お米の使い方をどうするか検討しました。依然としてコロナ対策で難



### 里山に稲ワラの妖怪「アマビエ」出現

脱穀後に出てきた稲ワラを積み上げて稲ワラポッチを制作しました。

今年には新型コロナウイルスで世界中が大変な状況にあるので、疫病退散の

ご利益があると言われる妖怪「アマビエ」に決めました。

しかし、いったいどのような姿形をしているのかさっぱり解りません。

とりあえず、稲わらを積み上げ始めました。道行く人から何を作っているのかと問われても「実は作業している私もど

しい学校生活を送っている子供達へのエールとして、少しづつでも新米を届けようと、子供達への激励手紙と里山のパンフレットを印刷して同封し配布しました。

「実は作業している私もどんなものができかわかりません」と答えるしかありません。しかも三割ほど積んだところで稲わらが足りないことに気が付き、設計変更で積み直しです。お腹の鱗と鼻は草鞋(ワラジ)つくりの技術、三本脚と目口は注連縄(シネナワ)つくりの伝統技術を応用して作成しました。



稲ワラ妖怪「アマビエ」

最後に横断幕に「コロナに負けるな！」としてようやく完成です。通りかかった人は、奇妙な稲ワラの妖怪像に驚いて立ち止まっています。

#### 【編集後記】

守谷市内で里山活動に取り組んでいる皆さんからの情報提供が何よりも重要です。本紙への活動報告、行事の予告など記事をお寄せください。

こちらまで

メール⇒ [denen21@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:denen21@ktb.biglobe.ne.jp)



畔の彼岸花

